

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970500623
法人名	医療法人芙蓉会
事業所名	グループホーム芙蓉
所在地	山梨県笛吹市一宮町竹原田1359-1
自己評価作成日	令和 3 年 11 月 8 日
評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php">http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 3年 12月 16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

桃畑・県立森林公園に隣接していて、春は桃と桜のコラボレーション、夏は新緑、秋には紅葉狩りが楽しめます。自然を満喫できるグループホームです。中庭からは、その景色を目の前に見ることができ、時には中庭で昼食をいただきます。一度に五感を刺激することができます。また、自然の中にありながら、徒歩圏内にショッピングセンターやホームセンターがあり、散歩の途中に買い物ができる環境にあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周辺の環境に恵まれ、近所に公園にも気軽に外へ出て、自然や季節を感じて頂ける支援に繋がっていました。建物は木造建築で温もりが感じられ、緑の芝生やベンチのある中庭にはリビングから自由に出入りできるようになっており、歩きやすい配慮もされていました。またホーム内からも開放感を感じられる良い眺めを楽しめます。食事は法人栄養士が立てた栄養バランスの取れたメニューを基に、家庭的な手作り料理を提供し、準備から片付けまで利用者さんそれぞれが得意なことをお手伝いし、皆さんが参加できるアットホームな雰囲気をつくっていました。自立に向けた取り組みではリハパン使用で生活していた利用者さんが、継続した声掛けや居心地の良い環境を整えたことで、今ではリハパンを使わず、自らトイレに行っているとの事で、支援者のチームワークで安心できる居心地の良いホームとなっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム芙蓉

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西館)	ユニット名(東館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GHとしての理念や目標について、職員会議等で見直しを行い、周知すると共に事務所・食堂に掲示し、共有している。	GHとしての理念や目標について、職員会議等で見直しを行い、周知すると共に事務所・食堂に掲示し、共有している。	法人理念は各所に掲示することで意識づけの継続を図っています。コロナ禍の為、職員会議は開かず、日々申し送りノートでしっかり引継ぎをして、各ユニットのリーダーとケアマネ、管理者4人で毎月会議を開き、理念に基づいた医療と介護を施し、その人らしい暮らしを提供できているか確認していました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に一度、歌の先生(ボランティア)による歌会や、市内の保育園児に行事の際は協力していただいている。	月に一度、歌の先生(ボランティア)による歌会や、市内の保育園児に行事の際は協力していただいている。	コロナ禍になる前には、積極的に地域との交流を行っていましたが、環境が一変している状況下で、ストレスを溜めない様にホームの中庭を利用した季節行事を開催し、利用者さんに楽しみを実感して頂けるように、こいのぼりや提灯を吊すなどの工夫がされていました。	コロナ禍が解消された際に地域との交流が直ぐに再開できるように、関係機関・各事業所と定期的に連絡を取り合うなど、関係を絶やさぬような働きかけを望みます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生・高校生の職場体験実習の依頼を受けている。認知症のお年寄りの接し方や病氣に対する理解を深めていただけるように努めている。	中学生・高校生の職場体験実習の依頼を受けている。認知症のお年寄りの接し方や病氣に対する理解を深めていただけるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催している。市役所職員・民生委員・入居者家族・入居者代表が出席し、事業報告や行事の写真を観ていただき、情報交換を行っている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。市役所職員・民生委員・入居者家族・入居者代表が出席し、事業報告や行事の写真を観ていただき、情報交換を行っている。	コロナ禍で会議が開催できないのでホーム内の様子を写真に撮ったりして、2か月に1度は近況等を文書にまとめて郵送で報告していました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所代表の方には、2か月に1回の運営推進会議に出席していただいている。市役所で開催している連絡協議会への参加に努めている。わからないことや、困りごとは、直ぐに連絡をとり相談するようにしている。	市役所代表の方には、2か月に1回の運営推進会議に出席していただいている。市役所で開催している連絡協議会への参加に努めている。わからないことや、困りごとは、直ぐに連絡をとり相談するようにしている。	コロナ禍で運営推進会議も開催できませんでしたが、日頃から交流があった市の役員の方と、コロナ感染症の予防接種方法を巡り、情報交換ができて、無事に利用者全員に接種できました。また職員接種に至るまで相談に乗って頂き、日頃からの協力体制と関係性の強さが伺えました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを職員全員に配布し、研修もしている。玄関は施錠されており、自由に入出入りできないが、一緒に出られるように対応している。中庭は自由開放している。	身体拘束マニュアルを職員全員に配布し、研修もしている。玄関は施錠されており、自由に入出入りできないが、一緒に出られるように対応している。中庭は自由開放している。	中庭には自由に出入りできるようになっており、芝生が広がり椅子やベンチも設置されて、開放感が感じられる空間が常に整備されていました。また、夕方になると玄関より外に出たい様子の利用者さんもおり、その際は、職員と一緒に付き添い玄関を開放し、その先にあるベンチに腰をおろすなどして、ゆっくり寛ぎ、拘束のないケアに心がけていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待マニュアルを職員全員に配布している。虐待となる行為や兆候を示すサインなどの把握に努めている。	高齢者虐待マニュアルを職員全員に配布している。虐待となる行為や兆候を示すサインなどの把握に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同法人の研修会・市の連絡協議会・その他外部の研修に参加し、理解を深めている。	同法人の研修会・市の連絡協議会・その他外部の研修に参加し、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談・ホーム内見学の段階から、ホームの取り組みについて説明し、契約時は重要事項説明書を基にわかりやすく説明している。不明な点は随時話し合う機会を設けている。	入居前の面談・ホーム内見学の段階から、ホームの取り組みについて説明し、契約時は重要事項説明書を基にわかりやすく説明している。不明な点は随時話し合う機会を設けている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム芙蓉

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西館)	ユニット名(東館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口があることを、重要事項説明書にも記載し、ホームの玄関にも掲示してある。ご家族の面会時には、お声をかけて、意見を伺うようにしている。	苦情窓口があることを、重要事項説明書にも記載し、ホームの玄関にも掲示してある。ご家族の面会時には、お声をかけて、意見を伺うようにしている。	コロナ禍の為、ご家族との面会は出来ませんでしたが、ライン電話を利用して毎週連絡を取り合ったり、タブレットを利用して会話を楽しめるように工夫されていました。ご家族とオンラインでお話した際には、ホームでの様子や状態を伝えると共に、ご家族の要望も必ず聞き取るようにしていました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の際に、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。	職員会議の際に、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。	職員の要望や意見は、日々のやり取りの中で聞き取り、案件によっては、毎月開かれているリーダー会議に提示するなどして、風通しの良い関係づくりが行われていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が無理なく勤務できるように、極力勤務の希望を聞き入れ勤務できるように配慮している。	職員が無理なく勤務できるように、極力勤務の希望を聞き入れ勤務できるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人の研修会・市の連絡協議会・その他外部の研修に参加し、理解を深めている。	同法人の研修会・市の連絡協議会・その他外部の研修に参加し、理解を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会への参加を促している。参加した職員は、他施設の同業者や他職種の方と話すことで、大変刺激になると感じており、今後のケアに活かしていきたい。	外部の研修会への参加を促している。参加した職員は、他施設の同業者や他職種の方と話すことで、大変刺激になると感じており、今後のケアに活かしていきたい。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に必ず入居者ご自身と面談する機会を設けている。その時入居者が暮らしている環境をみることで、お世話をされている方からお話を伺うようにしている。	ご入居前に必ず入居者ご自身と面談する機会を設けている。その時入居者が暮らしている環境をみることで、お世話をされている方からお話を伺うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前に入居者ご自身・ご家族と面談し、認知症発症の経過、不安に思っていること・困っていること等伺い、一緒に考えながら信頼関係を深めている。	ご入居前に入居者ご自身・ご家族と面談し、認知症発症の経過、不安に思っていること・困っていること等伺い、一緒に考えながら信頼関係を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談・ホーム見学の段階から、ホームの取り組みについて説明し、契約時は重要事項説明書を基にわかりやすく説明している。不明な点は、随時話し合う機会を設けている。	入居前の面談・ホーム見学の段階から、ホームの取り組みについて説明し、契約時は重要事項説明書を基にわかりやすく説明している。不明な点は、随時話し合う機会を設けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者にとって職員は、きちんと職員と認識されている方もいれば、家族の誰か・会社の同僚など認識もまちまちなので、個々に寄り添い接している。	入居者にとって職員は、きちんと職員と認識されている方もいれば、家族の誰か・会社の同僚など認識もまちまちなので、個々に寄り添い接している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム芙蓉

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西館)	ユニット名(東館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	入居者に安心して過ごしていただくために、ご家族と の連絡を密にし、可能な限り協力を依頼している。	入居者に安心して過ごしていただくために、ご家族と の連絡を密にし、可能な限り協力を依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の協力で、お墓参りや行きつけどった美 容院に出かけている。	ご家族や知人の協力で、お墓参りや行きつけどった美 容院に出かけている。	以前は、馴染みの美容院へ家族と一緒に出かけたり、 知人と温泉やカラオケに出かけたり、地域の友人が訪 ねて来たりして、自由に交流されていましたが、コロナ 禍で不要不急の外出自粛生活が強いられる中、手紙を 書いたり、ライン電話やタブレットを活用した交流を図 り、関係性の継続に配慮した取り組みが行われていま した。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	入居者同士、心配事があれば一緒に考えてくれる 場面がある。食事の面では、おかわりの促しや、口を 拭いてあげる場面もあり、支え合い暮らしている。	入居者同士、心配事があれば一緒に考えてくれる 場面がある。食事の面では、おかわりの促しや、口を 拭いてあげる場面もあり、支え合い暮らしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設へ転居された方は、その後面会して経 過を見守っている。長期入院のため契約解除した方に 関しては、症状が改善した際、優先的に受け入れをし ている。受け入れ困難な場合でも、情報を提供して困 ることのないように支援している。	入院や他施設へ転居された方は、その後面会して経 過を見守っている。長期入院のため契約解除した方に 関しては、症状が改善した際、優先的に受け入れをし ている。受け入れ困難な場合でも、情報を提供して困 ることのないように支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	入居前に得た情報から、希望・意向の把握に努めてい る。意思の疎通の困難な方に関しては、はっきり言葉 や言動を見逃さないように、ケアのヒントにしている。	入居前に得た情報から、希望・意向の把握に努めてい る。意思の疎通の困難な方に関しては、はっきり言葉 や言動を見逃さないように、ケアのヒントにしている。	日々のケアの中で、耳の不自由な方、発語が思うよう にできない方の観察を続け、職員がそのサイン形態を共 有することで、ご本人からのサインを見逃さず、その後 の対応に繋げることで、安心した暮らしの提供を行って いました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	ご本人やご家族から、生活歴や生活習慣の聞き取りを し、認知症を患う少し前の暮らしに近づくことができ るように努めている。	ご本人やご家族から、生活歴や生活習慣の聞き取りを し、認知症を患う少し前の暮らしに近づくことができ るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	観察記録を日内変動がわかるようにして、身心状態 の把握に努めている。特に不安定な方、重要なことを伝 える場合には、申し送りノートを活用している。	観察記録を日内変動がわかるようにして、身心状態 の把握に努めている。特に不安定な方、重要なことを伝 える場合には、申し送りノートを活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	計画作成は、ご本人・ご家族から今後の意向を伺い、 短期目標6か月・長期目標は1年で見直し作成してい る。変化があったり、問題が発生した場合は、スタッ フ間のカンファレンスにて、随時修正している。	計画作成は、ご本人・ご家族から今後の意向を伺い、 短期目標6か月・長期目標は1年で見直し作成してい る。変化があったり、問題が発生した場合は、スタッ フ間のカンファレンスにて、随時修正している。	利用者さんのひとり一人が持っている能力を把握して、 ケアプランを基に計画を作成し、6か月に1度見直しの会 議が開かれていました。途中のプラン修正も柔軟に行 われ、食事の際にむせる原因を模索し、とろみ材が使 用された例の記載もあり、現状に即した介護計画となっ ていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	観察記録に日々の様子や気づいたことを記録してい る。直ちに共有しなければならないことは、申し送り ノートを活用している。	観察記録に日々の様子や気づいたことを記録してい る。直ちに共有しなければならないことは、申し送り ノートを活用している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム芙蓉

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西館)	ユニット名(東館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な事情により生じたニーズに対しても、できる限り臨機応変な対応を考慮している。	急な事情により生じたニーズに対しても、できる限り臨機応変な対応を考慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の紹介でボランティアの方を行事の時に迎えたり、老人会の情報をいただいたりしている。	民生委員の紹介でボランティアの方を行事の時に迎えたり、老人会の情報をいただいたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの入居者は、月に2度の訪問診療を受けている。入居前からのかかりつけがあり継続希望の場合は、優先している。歯科の訪問もある。必要に応じて専門医へ受診の援助も行っている。	殆どの入居者は、月に2度の訪問診療を受けている。入居前からのかかりつけがあり継続希望の場合は、優先している。歯科の訪問もある。必要に応じて専門医へ受診の援助も行っている。	殆どの入居者は、月に2回の訪問診療を受け、今では普段の状態を良く知るかかりつけ医となっています。個々のケースに応じて専門医への受診援助も行い、歯科医は毎週木曜日に訪問して診療を行うなど、口腔ケアにも力を入れた安心できる医療ケアが実施されました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回、医師の診療とは別の週に訪問看護がある。アドバイスをいただいたり、緊急性のある場合は訪問看護師から医師に伝えてもらっている。	月に2回、医師の診療とは別の週に訪問看護がある。アドバイスをいただいたり、緊急性のある場合は訪問看護師から医師に伝えてもらっている。		
32		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は介護サマリーにて、身体状況や疾病の経過など情報提供を行っている。治療の期間や退院の見通しなど、ご家族と共に相談員や看護師との話し合いに参加させてもらっている。	入院時は介護サマリーにて、身体状況や疾病の経過など情報提供を行っている。治療の期間や退院の見通しなど、ご家族と共に相談員や看護師との話し合いに参加させてもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化対応・終末期ケアに関わる指針」を説明し、同意していただいている。入居者の状態に変化があった場合には、主治医も交えて今後の方針について話し合う。延命を希望しないご家族もあり、お看取りをするケースもある。お看取りが想定されるケースの場合は早めに話しあっている。	入居時に「重度化対応・終末期ケアに関わる指針」を説明し、同意していただいている。入居者の状態に変化があった場合には、主治医も交えて今後の方針について話し合う。延命を希望しないご家族もあり、お看取りをするケースもある。お看取りが想定されるケースの場合は早めに話しあっている。	看取りは、利用者の状態変化に伴い、その都度家族の心情を聞き取り、主治医を交えての診療対応で看取りが実践されていました。3例ほどの看取り経験もあり、家族との連絡を密に取って状態変化を見据えた早めの相談対応が実践されていました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、同法人内で行われる救急訓練に参加している。また、設置してあるAEDについても講習を受けている。	年に1回、同法人内で行われる救急訓練に参加している。また、設置してあるAEDについても講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、防災訓練を行っている。出火場所や日動想定・夜間想定と場面を変えて行っている。地域の消防団には来訪してもらい、ホーム内の見学や、入居者の状況について理解してもらっている。区長とも相互協力できるよう協定を結んでいる。	年に2回、防災訓練を行っている。出火場所や日動想定・夜間想定と場面を変えて行っている。地域の消防団には来訪してもらい、ホーム内の見学や、入居者の状況について理解してもらっている。区長とも相互協力できるよう協定を結んでいる。	警備会社を導入し、専門的視野から出火場所や勤務帯を想定した訓練が行われていました。地元消防団も毎年1度の訪問で、事業所内の様子や利用者状況を把握し協力体制を築いています。また、災害時の高齢者避難場所に指定されている為、区長との協力体制も整い、近くを流れる河川水位上昇時には、同法人の老健に避難できる体制も整えていました。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者にあった馴染みややすい言葉かけに対応している。長期関係での馴れ合い過ぎには、注意を促している。また、排泄面においてもプライバシーを損ねないような対応に努めている。	個々の利用者にあった馴染みややすい言葉かけに対応している。長期関係での馴れ合い過ぎには、注意を促している。また、排泄面においてもプライバシーを損ねないような対応に努めている。	事例として、臭いでトイレの失敗が察知できるほどだった時に、ご本人は全く感じておらず、トイレへの声掛けも聞き入れてもらえませんでした。間を空けて声掛けを続けるなど、利用者の特性を把握し、プライバシーを損ねない対応の継続で、改善したケースがありました。住み心地の良い場所づくりに心掛けた支援を実施していました。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム芙蓉

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西館)	ユニット名(東館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示ができる入居者に関しては、決める機会を作っている。意思表示が難しい入居者に対しては、好む好まないことの把握に努めている。	意思表示ができる入居者に関しては、決める機会を作っている。意思表示が難しい入居者に対しては、好む好まないことの把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	身心の変化で起床・食事・入浴時間など、決まった時間での行動が不可能な場合は時間を変更し、無理強いはしないように配慮している。	身心の変化で起床・食事・入浴時間など、決まった時間での行動が不可能な場合は時間を変更し、無理強いはしないように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介護しやすいジャージやスウェットには極力せず、今まで着ていた好みの洋服を着ている入居者が多い。	介護しやすいジャージやスウェットには極力せず、今まで着ていた好みの洋服を着ている入居者が多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居前に嗜好を伺い、アレルギーや苦手なものへの配慮をしている。入居者はテーブル拭き・配下膳・野菜切りや皮むき・洗い物を一緒に行っている。手伝いができない入居者も、料理は一から手作りなので、音や匂いを感じることができる。	入居前に嗜好を伺い、アレルギーや苦手なものへの配慮をしている。入居者はテーブル拭き・配下膳・野菜切りや皮むき・洗い物を一緒に行っている。手伝いができない入居者も、料理は一から手作りなので、音や匂いを感じることができる。	法人内の管理栄養士が立てた献立を基に、事業所独自にアレンジした家庭的な手作り料理を提供していました。調理の場面では利用者さんの役割が決まっており、下準備、下膳、洗い物等の場面場面で職員と一緒に携わり、明るく楽しい雰囲気を感じながら食事を楽しんでいる様子が伺えました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の管理栄養士が作成したメニューを基に、メニューをアレンジしている。入居者の嗜好・障害に合わせた形態で食事を提供している。	同法人の管理栄養士が作成したメニューを基に、メニューをアレンジしている。入居者の嗜好・障害に合わせた形態で食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者それぞれの口腔内の状況を把握し、毎食後にケアができるように支援している。口腔内のトラブルがあれば、直ぐに訪問歯科に依頼し対応している。	入居者それぞれの口腔内の状況を把握し、毎食後にケアができるように支援している。口腔内のトラブルがあれば、直ぐに訪問歯科に依頼し対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンは観察記録に記入し、把握に努め、誘導等個別支援をしている。入院をきっかけにオムツになってしまった方に対しても、排尿誘導にてオムツを外せるよう支援している。	排泄パターンは観察記録に記入し、把握に努め、誘導等個別支援をしている。入院をきっかけにオムツになってしまった方に対しても、排尿誘導にてオムツを外せるよう支援している。	リハビリと尿取りパットを使用していた、とても寒がりの利用者さんに対して、日当たりの良い暖かい場所で過ごすように職員の声掛けを継続したところ、失敗も減少し、リハビリのみで過ごせるようになりました。今では布パンツで過ごされ、経済的負担も軽減でき、自立に向けた素晴らしい支援結果を出していました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症で管理が必要な方に対しては、個々に応じた対応(内服の調整や飲便)をしている。	便秘症で管理が必要な方に対しては、個々に応じた対応(内服の調整や飲便)をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	通常週3回の入浴援助を行っている。午後の時間帯だが、体調や都合にも柔軟に変更できるように対応している。入浴嫌いで、決まった時間に入浴することが難しい方は、入りたいと言ったタイミングを逃さないように、柔軟に対応している。	通常週3回の入浴援助を行っている。午後の時間帯だが、体調や都合にも柔軟に変更できるように対応している。入浴嫌いで、決まった時間に入浴することが難しい方は、入りたいと言ったタイミングを逃さないように、柔軟に対応している。	入浴頻度を達成できるように、柔軟な対応でスムーズな入浴に努めていました。ただ、車いすの方も徐々に増え、転倒して入院する事例もある中、入浴も安心して、安全に入浴できるように、利用者さん自身に負担を掛けない、安心して入浴できる設備の検討もされていました。	利用者さんが、自ら進んで入りたいと思える、安心・安全な入浴が提供できる環境を整え、楽しみの一つとなるような工夫を望みます。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベットや寝具はホームに設置されているものがあるが、入居時に希望を伺い、馴染みのベットや寝具を持ってきていただくこともある。	ベットや寝具はホームに設置されているものがあるが、入居時に希望を伺い、馴染みのベットや寝具を持ってきていただくこともある。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム芙蓉

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西館)	ユニット名(東館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服情報は、すぐに見ることができるように、ファイルしてある。処方が変わった時は、申し送りノートに記載し、副作用等注意が必要な事柄は付け加えている。	内服情報は、すぐに見ることができるように、ファイルしてある。処方が変わった時は、申し送りノートに記載し、副作用等注意が必要な事柄は付け加えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの制作や、行事への参加を促している。嗜好面も、できるだけ配慮している。	季節ごとの制作や、行事への参加を促している。嗜好面も、できるだけ配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に2回、職員と入居者2:2で外出外食援助を行っている。入居者の身体機能や希望を考慮して行き先を決定している。近所の公園は随時出かけている。	年に2回、職員と入居者2:2で外出外食援助を行っている。入居者の身体機能や希望を考慮して行き先を決定している。近所の公園は随時出かけている。	毎日の勤務体制も厳しい中、外出は少人数で利用者さんも安心できる手厚い介助人数を付けて実施されました。コロナ禍になり、自粛生活を強いられている現在は、天気の良い日は中庭に出て日光浴を楽しみ、感染症レベルが下がった際は、近くにある公園を散策しながら散歩を楽しんでいました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いを管理している方は数人いる。能力に応じて支払いもしていただくが、ほとんどの方はご家族が管理している。	小遣いを管理している方は数人いる。能力に応じて支払いもしていただくが、ほとんどの方はご家族が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望される方には、都度対応している。手紙についても、届いた物への返事を出す支援をしている。	電話をかけたいと希望される方には、都度対応している。手紙についても、届いた物への返事を出す支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはテレビを囲んで大きなソファが置いてあり、入居者と職員が一緒にくつろいで過ごしている。食堂にも行き来しやすく、廊下には行事の写真や季節の制作物を飾り、四季を感じる工夫をしている。大きなサッシの向こう側は中庭で、明るく開放的である。	居間にはテレビを囲んで大きなソファが置いてあり、入居者と職員が一緒にくつろいで過ごしている。食堂にも行き来しやすく、廊下には行事の写真や季節の制作物を飾り、四季を感じる工夫をしている。大きなサッシの向こう側は中庭で、明るく開放的である。	中庭は広く、窓からの眺めも良く、緑の芝生が外へと誘うような雰囲気をつくっていました。環境を整える工夫がされ、利用者さんが好きな所を自由に歩けるように配慮されていました。今はフラワーペーパーを小さく丸めた物を貼り付けて、来年の干支である寅を完成させて、食堂から見える所に展示できるように利用者の皆さんで取り組んでいました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同志は居間や食堂で過ごしている。一人になりたい方は、居室や廊下、中庭の居心地のいい場所を確保して、定位置にしている方もいる。	気の合う同志は居間や食堂で過ごしている。一人になりたい方は、居室や廊下、中庭の居心地のいい場所を確保して、定位置にしている方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた家具や生活用品を持ち込んで、こたつを立てて、自宅にいた時のように過ごせるよう工夫したりお仏壇やお位牌を持ち込み、毎日水を換えている。	家で使い慣れた家具や生活用品を持ち込んで、こたつを立てて、自宅にいた時のように過ごせるよう工夫したりお仏壇やお位牌を持ち込み、毎日水を換えている。	押し入れ、エアコン、ベッドが備え付けで整備され、その他の生活必需品は、家具やこたつ、お仏壇、お位牌等を持ち込んで、自宅にいるような雰囲気をつくり、個性豊かな居心地の良い部屋となっていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手すりがついている。長い廊下を自由に行き来できるように、所々に腰かけを置き、ひとやすみできるように配慮している。	バリアフリーで手すりがついている。長い廊下を自由に行き来できるように、所々に腰かけを置き、ひとやすみできるように配慮している。		